

副作用のない薬を求めて、松本医院を
来院された方の手記。

「リウマチ性多発筋痛症の診断を受けて」

N・Y 70歳

2015年11月11日

①発病前の生活

今思い返せばこの10年は大変な期間でした。夫が64歳で癌を発病し、続いて難病も患い、最後には24時間介護が必要な状態になりました。第二の職場を離れ、老後はゆっくり色々楽しもうと思っていた事でしょうに、本人の残念な気持ちを察すると胸が痛みました。色々手を尽くし、本人も気丈に頑張りましたが2012年に他界してしまいました。病人にとっても、家族にとっても、精神的、肉体的にとっても苦しく、きつい闘病と介護生活でした。

悲しみも癒えない中、2014年から老犬の世話をすることになりましたが、2015年3月に死亡。相次ぐ愛しい者達との別れに、耐え難い悲しみを抱えながらの日々を過ごしておりました。

②松本医院の治療を決めた理由（発病）

2014年から2015年3月にかけて、老犬の世話のために、ひどい肩こりに苦しみました。ラブラドルの体重は30キロ近くあり、小柄な私にとって一人でする世話は重労働で、「首、肩の凝りも仕方ない」と我慢しながら過ごしておりました。愛犬の死から三か月が過ぎた2015年7月の朝、ベッドから起き上がろうとしても頭も上がらないことに気づきました。首、肩のこわばりと激痛。「こんなひどい肩こりはかつて経験ないな～、おかしい。何か重大な病が私の身に起きているのではないか？」と嫌な予感がしました……。不安な気持ちを抱えながら、私はベッドで身体を横にする他、何も出来ませんでした。しかし絶え間ない激痛で睡眠も取れず、37度余りの微熱が続き、言いようのない倦怠感が続く中、1週間が過ぎました。やっと歩けるようになったので、近くの病院で診察を受け、これまでの経過を話して血液検査を受けました。

診断の結果、「リウマチ性多発筋痛症であろう」と言われました。初めて耳にする病名に驚き、戸惑い、それがいっぺんに不安に変わりました。

治療法を尋ねると「ステロイド」と言われました。この病気の知識は全くありませんでしたが、ステロイドの治療効果の良さと怖さは多少知っていました。その日は「一度考え、出直します」と言って、薬を貰わず帰宅しました。早速家に帰り「家庭の医学書」とパソコンで病名について調べている中で、「松本医院の治療」を知りました。

残念ながら私は今までの経験上、どうも薬に弱い体質のようで、副作用の少ない薬でも医師の指示どおり飲むと胃腸や体調を崩す事があり、それが悩みでした。この体質と70年間付き合ってきて、「良い薬でも副作用が多い薬や、きつい薬は身体がついてゆかないだろう」と常々感じていたので、選択の余地なく「松本先生に治療をお願いしよう」と即決しました。

③2015年8月7日 初診

診察で松本先生に最近の近況と病気の経過を話すと、先生はストレスの要因についても尋ねられました。思い当たる事はいくつかありました。何時も一緒に過ごしてきた夫や愛犬の悲しい別れは、私の平凡な日常生活を根底から変えてしまいました。私の話を聞き終えたのち先生は、はっきりと「リウマチ性多発筋痛症」と診断し、「必ず治る」と心強い言葉をおっしゃいました。その言葉を聞いて安心した私は、先生の治療を信じ、希望を持って帰宅することができました。

④治療にあたり、今思うこと

松本医院で治療を始めてから3か月が過ぎました。待合室で多く方の手記を読むことで、この苦しい状態は私だけのものではなく、多くの患者が病気と真摯に向き合って治療している事を知り勇気が沸きました。この病気を発病するまで、それらしい身体のシグナルは多々ありました。長い間のきつい肩こりに加え、微熱も時々ありました。しかし、そうした病気の予兆に気づく知識が無い事は恐いにつくづく感じました。きっと身体が悲鳴をあげて知らしてくれたのでしょう。

もう少し早く気が付いておれば、無駄な苦しみが少なかったと反省しました。残念な発病でしたが、治療法が有るのは幸せな事です。焦らずゆっくり病と付き合っていくと思っています。先生が常々言われる「あなたの免疫力が病気を治すんや」という言葉を私自身が肝に命じ、先生や他の皆さんの協力をいただきながら、治療を進めて行きたいと願っております。「体内時計に沿った生活を過ごせているか?」「食生活は今のままで良いか?」など、もう一度生活を見直すと共に、「心の在り様にも配慮出来たらいいな～」と思いますが・・・。

手記を書くことには戸惑いもありましたが、この作業によって一度立ち止まって私自身の色々な事を見つめ直す良い機会となりました。感謝いたします。

	8/7	8/28	10/2
CRP	0.58	0.05 以下	0.09
HSV	116.5	91.2	74.0
VZV	21.6	22.4	